

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-0006  
 住 所 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー  
 氏 名 旭化成株式会社  
 代表取締役社長 小堀 秀毅  
 (代理人) 製造統括本部 川崎製造所 所長 藤田和久  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	旭化成株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区夜光一丁目3番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学系基礎製品製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	90,125	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ~ 平成30年度 (報告年度 平成30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 <a href="http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/rc/environment/target.html">http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/csr/rc/environment/target.html</a>

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

## 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

## (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

## ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 208,336 (調) 205,361 t-CO <sub>2</sub>	(実) 198,770 (調) 195,768 t-CO <sub>2</sub>	(実) 208,006 (調) 204,955 t-CO <sub>2</sub>	(実) 186,887 (調) 183,882 t-CO <sub>2</sub>	(実) 206,192 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) 4.6 % (調) 4.7 %	(実) 0.2 % (調) 0.2 %	(実) 10.3 % (調) 10.5 %	(実) 1.0 %

## イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		原単位		
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.5011	0.5165	0.5371	0.4700	0.4960
削減率		-3.1 %	-7.2 %	6.2 %	1.0 %

## ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	2016年度は定期修理年（隔年ごとに実施）であったため、生産数量が低かった。このため温室効果ガス排出量が低下したが、原単位は増加した。
第2年度	2017年度は非定期修理年であるが、需要減のため生産数量は基準年度の数値には到達しなかった。一方、副生物を生成するMMAプラントの生産量が増えたため、焼却炉で燃焼している副生油（灯油に換算）が多かった。また、一時停止していた焼却炉を再稼働させた。これらのため温室効果ガスの排出は0.2%の減少にとどまり、原単位は7.2%の増加となった。しかしながら、排出量反映・実排出量については、弊社が参画している川崎スチームネットの効果がフルに発揮されて、195,941tとなり、基準年度より約6%低下した。なお、2017年度にコージェネレーション設備導入を決定したため、排出量及び原単位は今後改善する見込み。
第3年度	2018年度は主に下記①～③の取り組み等により、温室効果ガス排出量が減少（基準年度比▲10.3%）し、結果としてエネルギー原単位も改善（基準年度比▲6.2%）した。 本計画期間においては、計画時の目標排出量、目標原単位はいずれも達成した。次期計画期間では、コージェネレーション設備の導入などを通じてさらなるCO <sub>2</sub> 排出量の低減に努める。 ①工程（プロセス）における触媒更新による副生油（灯油に換算）使用量の減少 ②エジェクタ設備の更新、照明LED化の推進等によるエネルギー使用量減少 ③焼却炉の稼働率低下（定修に伴う対応）による副生油使用量の減少

## (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p>&lt;全社目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量（国内）の削減：2005年度基準で、2020年35%削減 → 達成</li> <li>LCA視点でのCO<sub>2</sub>削減貢献：2020年度10.0 → 達成、環境貢献製品の新定義に基づく新しい対象製品を抽出中</li> <li>産業廃棄物の最終処分率0.3%以下（対発生量）の継続 → 2018年度0.2%で目標達成</li> </ul>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	ISO14001マネジメントシステムに基づき、製造所の実施計画及び各部署の実施計画を定め、温室効果ガス排出量の削減に関する対策を実施する (1) MMAモノマー製造プラント廃ガス燃焼工程の排ガスからの熱回収をさらに強化し、蒸気使用量を低減することにより温室効果ガスを削減する (2) MMAモノマー製造プラント反応器の熱回収を強化することにより温室効果ガスを削減する (3) MMAモノマー製造プラントの蒸留塔トレイを適正化し、蒸気使用量を低減することにより温室効果ガスを削減する (4) 合成ゴム製造プラントクラミング工程において、廃熱を利用することによりタンク加熱蒸気を低減し、温室効果ガスを削減する
	第1年度	(1) MMAモノマー製造プラント廃ガス燃焼工程の排ガスからの熱回収強化を実施した。 (2) MMAモノマー製造プラント反応器の熱回収強化を実施した。 (3) MMAモノマー製造プラントの蒸留塔トレイ適正化の工事を実施した。 (4) 合成ゴム製造プラントクラミング工程の廃熱回収工事を実施した。
	第2年度	(1) MMAモノマー製造プラントの蒸留塔トレイの適正化により、蒸気使用量を低減した。 (2) 合成ゴム製造プラントクラミング工程の廃熱回収によりタンク加熱蒸気量を低減した。 (3) 照明更新に合わせ、LED照明の導入を実施した。
	第3年度	当初計画していた温室効果ガスの排出量削減のための措置は完了した。加えて、さらなる排出量削減のため下記の取り組みを推進した。 (1) 工程（プロセス）における触媒更新により、副生物（灯油）を抑制 (2) 省エネタイプへの設備更新 (3) 照明更新に合わせ、LED照明を導入
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

<p>・計画及び実績なし</p>
------------------

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎ブランド認定商品 製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」、CO2域外貢献量1180t</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎ブランド認定商品 製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」、CO2域外貢献量1220t</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎ブランド認定商品 製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」、CO2域外貢献量計画目標達成</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低CO2川崎ブランド認定商品 製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」、CO2域外貢献量計画目標達成</li> </ul>

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさきコンパクトへの参加</li> <li>・エコドライブ要請の実施</li> <li>・廃棄物の排出量の把握及び削減</li> <li>・荷主CO2排出量削減の推進</li> <li>・グリーン購入の推進</li> </ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさきコンパクトへの参加実施</li> <li>・エコドライブ要請の実施 → 2016年度要請件数：167件</li> <li>・廃棄物の排出量の把握及び削減の推進を実施</li> <li>・荷主CO2排出量削減の推進を実施</li> <li>・グリーン購入の推進を実施</li> </ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさきコンパクトへの参加実施</li> <li>・エコドライブ要請の実施 → 2017年度要請件数：206件</li> <li>・廃棄物の排出量の把握及び削減の推進を実施</li> <li>・荷主CO2排出量削減の推進を実施</li> <li>・グリーン購入の推進を実施</li> </ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさきコンパクトへの参加実施</li> <li>・エコドライブ要請の実施 → 2018年度要請件数：197件</li> <li>・廃棄物の排出量の把握及び削減の推進を実施</li> <li>・荷主CO2排出量削減の推進を実施</li> <li>・グリーン購入の推進を実施</li> </ul>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	177,817	t-CO <sub>2</sub>
(調)	174,047	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO <sub>2</sub>
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
株式会社 豊田化学工業	豊田県岡崎市/緑区夜光二丁目3番1号	1631	石油化学系基礎製品製造業	170,115 t-CO <sub>2</sub>
株式会社 豊田化学工業	豊田県岡崎市/緑区河島町10番9号	1635	プラスチック製造業	7,702 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--